

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
1	その他	その他	この大綱自体が具体的にどのように活用されるか、意見を募集するに当たって、皆さんがこれは一体何につながるのだろうというところを分かったほうがいいかなというふうに思うが、教えてほしい。	この大綱については平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受けて、策定が義務づけられている。法改正の趣旨でいうと、教育に対する政治的な中立性、継続性、安定性、責任の明確化、危機管理体制の構築といったところを踏まえ、地域の実情も鑑みて、教育、学術、文化振興に関する総合的施策の大綱を策定するものである。様々な計画や施策のベースとなるものと言い換えてもいい。	平成27年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正を受けて、策定が義務づけられているものです。法改正の趣旨は、教育に対する政治的な中立性、継続性、安定性、責任の明確化、危機管理体制の構築を目的として、策定にあたっては地域の実情も鑑みて策定するものと認識しています。
2	その他	その他	第六期長期計画・調整計画の議論との関係性について、六長調のほうの議論でこの部分を重視して大綱案に盛り込んだ箇所を確認したい。	子どもを主体としている表現に改めていることや、「「学びおくりあう」地域づくり」「ヤングケアラー」といった第六期長期計画・調整計画で使われたワードや、子どもの居場所、学校給食の質や無償化の検討等々がこの施策の大綱の中に盛り込まれている。	大綱は市民参加で策定してきた第六期長期計画・調整計画を踏まえるものであり、整合をとったうえで案を作成しました。
3	その他	その他	子どもの表現が、「子ども」、「中高生世代」、「小学生」とか「児童生徒」とかというふうにばらばらになっている。行政の目線ではそうかもしれないが、市民からすれば、子どもというところである程度一括りなのではないか。こんなに切り分ける必要があるのか。	確かにいろいろな言葉が使われているが、その時々で文章の中で一番適している言葉を使っている。今後パブコメを実施していく中で、表現に関する意見をいただきたい。	ご意見として承ります。対象を明確にするために、使い分けをしています。

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
4	重点的な取り組み	市民の誰もがスポーツを楽しめる環境の整備	「「学びおくりあう」地域づくり」は生涯学習の分野だと思うが、これだということが重点的な取り組みからは読み取れない。	「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」ということで、個人の学びが、地域、先輩、後輩につないでいくという考え方である。コロナ禍の中、様々な事業が行えず、ようやく再開できたような状況のため、重点的な取り組みに反映されていない。	第二期武蔵野市生涯学習計画では、「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」を基本理念として定めています。各事業の現状は、コロナ禍の収束により、ようやく通常運用を再開し始めました。来年度は、生涯学習に関する市民アンケート調査等を予定しているため、その結果を踏まえたうえで、重点的な取り組みを記載をしていきます。
5	重点的な取り組み	市民の誰もがスポーツを楽しめる環境の整備	施設整備を重点的に書き込んでいるが、やはり市民がみんなで学ぶことをやっているとまちの力を高めていくことにつながらない。なので、せっかく「「学びおくりあう」地域づくり」をキーワードとして盛り込んでいるのであれば、重点施策というところにそこと合致するものを入れてほしい。		No. 4をご覧ください。
6	その他	その他	意見募集期間について、今回、年をまたいで、12月15日から一ヵ月ということになっているが、市民の忙しさということを考えると年末年始というのはなかなか難しいと思う。この時期をずらすというようなことは検討できなかったのか。	年末年始にかけての意見募集の難しさというのは指摘のとおりである。今後、そういった意見も踏まえて、募集期間は検討していきたい。	4年前も同様の期間で実施し、3名から16件の意見をいただきました。 今回は子ども向けに学習者用コンピュータへの配信を行うなどの新たな取り組みを行い、18歳未満の子どもと一般から計22名51件の意見をいただきました。 上記のような意見提出をしてもらうための工夫を引き続き行っていきたいと考えます。 なお、大綱を作成するスケジュールを鑑みると大幅にスケジュールを変更するのは難しいので、募集期間を少しでも長くとれないかなどの工夫は検討したいと考えます。

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
7	その他	その他	現在進行中のこと、具体的には給食費無償化の検討、二中と六中の統合など、長期計画・調整計画事項や予算審議で決定するかもしれない事柄を大綱に乗せるのはどういふものかと思う。	大綱の構造として、基本理念、施策の基本的方向性、重点的な取り組みの3つの構造でできている。重点的な取り組みについては毎年変わり得るものであり、基本理念や基本的な方向性というのは、4年間はこの方向で行くものである。	大綱の構造として、基本理念、施策の基本的方向性、重点的な取り組みの3つの構造をとっています。そのうち、重点的な取り組みについては毎年取り組み内容を確認し、次年度には見直しを行います。そのため、重点的な取り組みに記載した内容と、予算審議の結果は、予算執行年度において整合をとることができると思います。
8	重点的な取り組み	子どもの居場所の確保	「不登校児童生徒の社会的自立を目指し、安心して過ごせる居場所や多様な学びの場の整備を推進する」という文言については賛成だが、何をもちて社会的自立と言うかは人によって違う。何が自立かよく分からないと思う当事者やその保護者もいるように思う。	社会的自立というのは一様ではなく、それぞれの子どもにとっての社会的自立である。受援等を受けての社会的自立もあり、一律な社会的自立とは考えていない。それぞれの子どもにとっての社会的自立であると認識している。	ご意見のとおり、社会的自立は子ども一人ひとりにあったふさわしいあり方を考えていく必要があります。「不登校児童生徒の社会的自立に向けて、安心して過ごせる居場所や多様な学びの場の整備を推進する。」に修正します。
9	その他	その他	今回の大綱は、法律が改正され、作成が義務づけられてはいるが、他の個別計画との関係性が、よくわからない。様々な計画の上位に来るのか、横を貫く計画なのかがよく見えてこない。どういう位置づけになっているのかを確認したい。またなぜ4年間になっているかの説明も欲しい。	施策の大綱については、長期計画と個別計画との中間的なところに位置するというイメージになる。 また4年間の根拠については、総合教育会議条例の第6条に大綱と長期計画との整合が規定されている。長期計画、もしくは調整計画が4年に一度見直すため、それに合わせて大綱も見直している。	施策の大綱については、長期計画と個別計画との中間に位置すると思います。 また4年間の根拠については、総合教育会議条例第6条に大綱と長期計画との整合が規定されています。長期計画、もしくは調整計画が4年に一度見直すため、それに合わせて大綱も見直しを行っていくと考ます。
10	その他	その他	個別計画に書いていないことが大綱に出てきた場合、それは個別計画にも全部影響してくるという理解なのか、それとも個別計画は個別計画で進んでいくのか。	この大綱に記載されている重点的な取り組みについては長期計画・調整計画も含めて何らかの計画に位置づけはされている。	長期計画や個別計画の方向性と外れるものは本大綱に記載はできませんが、方向性が一致するものであれば、記載できると考えます。 方向性が一致する事業を記載した場合、個別計画の次期改定の際に、一定影響を与えつつ、実際の記載は個別計画の策定委員会等が検討するものと認識しています。

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
11	その他	その他	<p>4年間の根拠は、民意の反映である首長と、教育行政のトップである教育委員会と、その整合性を合わせるため、民意の象徴である首長の任期に合わせるのがそもそも前提だという理解だが、首長の任期に合わせて計画しているのに、首長が替わったらどうなるのかという根本的な矛盾が出てくる。そういう立て付けでいいのか。</p>	<p>調整計画は大きな施策の方向性を定めているというのが基本的スタンスで、ある程度抽象的であるため、その範囲の中で時の首長の判断はあると考える。</p> <p>根拠もなく、長期計画・調整計画でも読み取れないような施策をやると言ったときに、これまでの計画行政を実施してきた武蔵野市としての疑問は出てくる。</p>	<p>長期計画・調整計画は大きな施策の方向性を定めており、その中で、首長が事業を実施しています。</p> <p>実行計画（調整計画）が見直された場合は、大綱も整合をとるために見直されるものと認識しています。</p>
12	その他	その他	<p>長期計画に書いていないことでも、公約だからやると言われたら、拒めなくなってくる。それをどう反映していくのかは課題ではないか。逆に言うと、この大綱と計画との位置づけについて概念図をつくっておいたほうが市民側には伝わるのではないか。</p> <p>例えば、「長期休業中の学童クラブの昼食」「小中学生の居場所づくり」といったワードはぜひやってほしいことだが、他の計画に書いてあるのかということ見受けられない。大綱が決まれば調整計画に反映していくのか、調整計画に書かれていないからどこかへ消えていってしまうのか、その関係性が見えない。そういう意味で、概念図がどうなっているのかということも書いたほうが良いという提案である。</p>	<p>概念図を示すのであれば、長期計画との関係図だとかというところを示していくことになるので、その中に、もし可能であれば、施策の大綱というのはこういうことなのだよというのが示せるといいではないかと考える。</p>	<p>長期計画と本大綱や個別計画はそれぞれに策定期間が異なります。全てに同じことを記載するのではなく、それぞれの策定時での社会情勢の変化を踏まえ、異なる策定委員会が、その裁量に応じて答申をするものです。</p> <p>また大綱は、教育に対する政治的な中立性、継続性、安定性、責任の明確化、危機管理体制の構築を目的とし、策定にあたっては地域の実情も鑑みて策定しています。</p> <p>概念図については今後参考としてお示しができないか検討していきます。</p> <p>ご指摘の「長期休業中の学童クラブの昼食」「小中学生の居場所づくり」については、今後子どもプランなどにおいて記載を検討されていくと考えます。</p>

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
13	その他	その他	令和6年度から令和9年度までの4年と書いてあるが、市長が替わった時に、例えば令和7年度からということになるのか、絶対令和6年度から開始のものでなくてはならないのかを含めて、市長が替わったとき、長期計画及びこの大綱を大きく変えたいという反応があった場合の対応をどう考えたらいいのか。	施行前に新市長のもと、総合教育会議が予定されている。その際には、パブコメ等が出た意見も踏まえて、今の案を協議し、最終的には新市長が決定する。新市長が大幅な修正をする場合は、もう一度意見募集をする可能性はあると認識している。ただ基本的にこの大綱自体が、六長調のエッセンスを踏まえており、その調整計画は武蔵野市方式でつくったものである以上、新市長といえどもそれを踏まえて市政を実行していくものと考えている。	第六期長期計画・調整計画は1月15日に新市長のもと、計画決定を行いました。調整計画と整合をとって作成した本大綱においては、パブリックコメントをいただいたのちに、令和5年度第3回総合教育会議に諮り、その意見を反映し、市長が決定するものです。
14	その他	その他	長期計画について、市長が替わったら、見直すというか、作り直すのか。	新市長の下で新たな調整計画の本部会議を開催して計画の決定を予定しているが、これだけ市民参加の手続を経て策定委員会方式でつくってきた調整計画を受け入れないというようなところは少し難しいと考える。一方、公約を掲げて当選し、それが現在の調整計画の施策の中ではどうしても読み取れないということがあれば、新たに第六期長期計画・第二次調整計画を策定するという判断はあり得ると考える。	第六期長期計画・調整計画は1月15日に新市長のもと、計画決定を行いました。一方市長が公約に掲げた事項のうち、第六期長期計画・調整計画から導けない事項もあります。今後、第二次調整計画を策定するという判断はあり得ると考えます。
15	その他	その他	新市長のもとで行われる次回総合教育会議に1回で決まっていいいのか、たった1回しかチャンスがないのかと。それについては、これでいいのかなという疑問はある。	大綱単体で施策を実施するというよりは、大綱は調整計画と密接に結びついている。法律的に言えば、市長が予算を出して議会が議決すれば通るとというのが制度だが、武蔵野市としては、長期計画条例を策定し、市民参加の議論をしているので、その上で市長がどう判断されるか、また、議会がどう判断するかだと考える。	本大綱においては、パブリックコメントをいただいたのちに、令和5年度第3回総合教育会議に諮り、その意見を反映し、市長が決定するものです。なお、今年度予定している総合教育会議は残り1回ですが、必要に応じて開催する場合があります。

No.	大項目	項目	意見要旨	答弁要旨	取扱方針
16	その他	その他	<p>令和6年度から令和9年度、これがずれ込むことはあり得るのか、ないのか。そういう立てつけにはならないのかどうか</p>	<p>期間については、総合教育会議条例の中で「長期計画との整合を取って」とあるので、長計・調整計画の期間がずれるようなことがあれば、それに連動して大綱も期間が変わる可能性はある。</p>	<p>総合教育会議条例第6条において長期計画との整合性を保つように努めると定めがあるので、長計・調整計画の期間がずれれば、大綱も期間の見直しが必要と考えます。</p>
17	重点的な取り組み	学校改築の計画的な推進	<p>学校の統合計画について、先日関係者と会う機会があった。そのとき言われたのは、やはり不安だということ、またメリット、デメリットがそれぞれあって、賛成、反対は判断できない。それでもやはり情報が欲しい、できるだけ多くの保護者にきちんと説明する機会を設けてほしいという強い要望があった。</p> <p>それともう一つ、大綱には教育面を第一に様々な観点からと書いてあるが、そもそものスタートは、ハード面、コスト面からだと思われる。そういう中でも、やはり保護者はコスト削減というのではなく、子どもを最優先に考えてほしいという意見があった。</p>		<p>学校の改築、統合等については、これまでの改築事業で得た知見や経験を踏まえ、市全体の学校改築計画の中で、関係者の意見も聞きながら、教育面を第一に様々な課題を検討していきます。</p>